# ４［随筆］『ぼくの大切な友だち』

［１］　誰から聞いたか思い出せないのだが、「物語と小説の違いは、小説には人生があり物語にはない」というａテイギがいつのころからか頭に残っている。

［２］　①異論のある人も多いだろう。「シンデレラ」や「浦島太郎」や「白雪姫」が人生を語っていない、とはとてもいえない。しかし、［　Ⅰ　］はたしかに人生の細かな現実を語ってはいない。その代わり、ありそうもない話の楽しさがあるし、だからこそこめられるＡ寓意も、ｂタンテキな人生の要約もある。

［３］　一方、［　Ⅱ　］は「ありそうもない話」も、人生の細かな本当を積み上げて「ありそうな話」にしてしまう装置である。

［４］　と、妙なことを書き出したのは、パトリス・ルコントの映画「ぼくの大切なともだち」を見たせいである。この映画には物語と小説がにまざり合っている奇妙な味があった。

［５］　パリのやり手の美術商で、独身の中年男が、商売がらみである葬式に出る。その参列者の少なさに胸を突かれてしまう。自分の葬式には一体何人の友だちが来てくれるだろうかと思う。このあたりは［　Ⅲ　］風である。

［６］　男は貸切りでタクシーをやとって、思い当たる友人をｃタズねはじめる。「自分の葬式に出てくれるだろうか」と聞き歩くのである。これはもう［　Ⅳ　］に傾いている。ありそうもない話である。タズねられた男も女も「あんたの葬式なんか誰が行くか」とＢニべもない。これもありそうもない。心でどう思おうと「［　Ⅴ　］」とこたえるのが多くの大人の現実だろう。

［７］　ともあれ、孤独を思い知った男は、何日も使っていたタクシーの若い運転士の人柄にひかれて行く。運転士は男の悩みにやさしい。とうとう男は「君こそ俺の友だちだ」といってしまう。

［８］　すると運転士が、それはダメだという。会って間がないからができていない。サン＝テグジュペリは「星の王子さま」で、友だちをつくるのには時間をかけなければいけない、と頭のいいにいわせている。沢山の人の中から、ある人を大切に思えるようになるには、その人のために沢山の時間を使わなくてはならないんだ、と。

［９］　いくらかｄキオクの変形があるかもしれないが、②サン＝テグジュペリを持ち出してそういう会話がでてきたのである。

［10］　これはもう物語の色が濃く、ああこんなふうにリアルと非リアルがまざり合う世界もいいものだな、と同業の末端にいる者として教えられたような気持ちも湧いた。

［11］　その映画を見る二カ月ほど前、私は小学校からの友人を亡くしていた。ころびやすいという徴候がはじまってから一年ほどだったが、見る見る全身にがひろがり、入院となり寝たきりになり筆談となり、その筆も持てなくなり、本人は驚くほど穏やかだったが進行は実にｅ容赦がなかった。

［12］　黙ってにいたことがあった。時間をかけた友人を失う重みに、こっちも声を失っていた。書くと情に傾きすぎそうで、③映画にかこつけて、こんな短文になった。

●語　注

パトリス・ルコント＝一九四七年～。フランスの映画監督・脚本家。『仕立て屋の恋』『髪結いの亭主』など。『ぼくの大切なともだち』は、友人のいない中年男が親友づくりに奔走するコメディ映画（二〇〇六年）。

サン＝テグジュペリ＝一九〇〇～一九四四年。フランスの小説家、パイロット。代表作『夜間飛行』『人間の土地』は現在でも世界中で広く愛読されている。童話『星の王子さま』は、サハラ砂漠に不時着した飛行士と、星から来た王子さまとの対話によって現代文明を省察した永遠の名作。自身で描いた素朴な挿絵も作品とともに長く愛されている。

■覚えておきたい語句

□５寓意……………………他の何かにかこつけて、それとなくほのめかすこと。

□５タンテキ……………………はっきりしているさま。

□10胸を突く………………びっくりする。

□14ニベもない……………まったく愛想がない。思いやりもない。

問１　波線部Ａ・Ｂの意味をそれぞれ次から選べ。　4点×2

Ａ「寓意」

ア　生きていく中で重要な意味をもつ道徳的な教訓。

イ　直接でなく別の物事に託すことで表された意味。

ウ　受け手によって様々に異なる作品や言葉の解釈。

エ　作者が意図しないところで生じる偶然性の産物。

オ　書き手と読み手との間で交わされる無言の合意。

Ｂ「ニベもない」

ア　反抗的なこと。　　イ　ありえないこと。

ウ　不自然なこと。　　エ　愛想がないこと。

オ　無作法なこと。

　Ａ〔　　〕　Ｂ〔　　〕

問２　傍線部①とあるが、筆者はどのような意見を「異論」と想定しているのか。簡潔に答えよ。　6点

　　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　空欄Ⅰ～Ⅳには「物語」「小説」のいずれかが入る。それぞれどちらが入るか答えよ。　4点×4

Ⅰ［　　　］Ⅱ［　　　］Ⅲ［　　　］Ⅳ［　　　］

問４　空欄Ⅴに入る言葉として最も適当なものを次から一つ選べ。　5点

ア　気が向いたらね　　イ　悪いけど行けないな

ウ　考えさせてくれ　　エ　先のことはわからないさ

オ　もちろん行くよ

　　〔　　〕

問５　傍線部②とあるが、この部分に用いられている表現技法と同じ技法を用いたものを次から一つ選べ。　5点

ア　夏目漱石の小説は私の人生の師だ。

イ　居間でベートーベンを聴こう。

ウ　ピカソの怪物みたいな絵が好きだ。

エ　モンゴメリは書いた、『赤毛のアン』を。

オ　世界でも有名な黒澤明の映画。

　　〔　　〕

問６　傍線部③とあるが、この映画の内容を引用した筆者の意図を、12段落に述べられている心情と関わらせて八〇字以内で説明せよ。【読みのセオリー】　10点

　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

◆漢字

　本文中の二重傍線部ａ～ｅのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ［　　　］ｂ［　　　］

ｃ［　　　］ｄ［　　　］

ｅ［　　　］

【解答】

漢字　ａ定義　ｂ端的　ｃ訪（ね）　ｄ記憶　ｅようしゃ

問１　Ａ＝イ　Ｂ＝エ

問２　物語にも人生（を描いたもの）があるという意見。

問３　Ⅰ＝物語　Ⅱ＝小説　Ⅲ＝小説　Ⅳ＝物語

問４　オ

問５　イ

問６　大切な友人を失った重みを直接書くと情に傾きすぎそうだったため、「沢山の時間をかけてつくった友人」についての語りを含んだこの映画の内容を引用した。（72字）

前半別解＝小学校からの大切な友人を失った重み、つらさを前面に出すことがためらわれたため、?（「沢山の」以下同じ）

（80字）

【読みのセオリー】

★随筆は話題の推移も意識して読む

　随筆では、首尾一貫した筆者の主張が述べられるというより話題の中心が少しずつ推移していくケースが見受けられる。

　本文で言えば、［１］～［３］段落、［４］～［10］段落、［11］・［12］段落での話題の中心が微妙に異なっていることに気づくはずだ。その推移に注意しながら読んでいこう。

〔要　約〕

　導入は「物語」と「小説」の違いから。映画の内容に触れつつ、12段落で書かれた筆者の思いにつなげていきたい。

　　　　　↓

　小説には人生があり物語にはない。物語と小説がまざり合う映画で「友だちをつくるのには時間をかけなければいけない」とあった。私は小学校からの時間をかけた友人を失ったが、書くと情に傾くので映画にかこつけた。（100字）

〈筆者＆出典〉山田太一（やまだ・たいち）一九三四（昭和9）年東京都生まれ。脚本家、小説家。早稲田大学卒業後、松竹に入社。『男たちの旅路』シリーズや、自身の小説を自ら脚本化した『岸辺のアルバム』などのテレビドラマで確固たる地位を築き、現在も活躍中。本文は、'09年版ベスト・エッセイ集『死ぬのによい日だ』（文藝春秋、二〇〇九年）より。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

新問Ａ　１行目「物語と小説の違いは、小説には人生があり物語にはない」とはどのような意味か。最も適当なものを次から一つ選べ。

ア　物語は、動物が主人公または副人物になっているものが多く、人を描いているものはまずない、ということ。

イ　物語は、人の生活の一部を取り上げているものが多く、人生まるごと描いているものはない、ということ。

ウ　物語は、小説に比べ、リアリティーを意識して書かれているものがほとんどない、ということ。

エ　物語は、ありそうもない話がほとんどなので、そこに込められている意味も理解しにくい、ということ。

オ　物語は、子供向けの「むかし話」や「おとぎ話」がほとんどで、大人には楽しめない、ということ。

答　ウ

問４（差し替え）空欄Ⅴ（14行目空欄Ⅴに「もちろん行くよ」を入れ、15行目「現実」を空欄Ⅴに）に入る二字の熟語を本文中から本文中から抜き出して答えよ。

答　現実

新問Ｂ　23行目「リアルと非リアルがまざり合う」とあるが、映画の内容が紹介されている部分で、「リアル」に相当すると筆者が考えている部分が書かれている段落を段落番号で答えよ。

答　５段落

新問Ｃ　23行目「リアルと非リアルがまざり合う」とほぼ同じ内容を表している部分を本文中から一七字で抜き出せ。

答　物語と小説が気儘にまざり合っている

新問Ｄ　本文中の表現についての説明として、間違っているものを次から一つ選べ。

ア　5行目「タンテキな人生の要約」とは、本来長いはずの「人生」の主要素を短くまとめるという意味の表現である。

イ　7行目「装置」とは、文章を一種の「仕掛け」があるものとして比喩的に表現したものである。

ウ　10行目「胸を突かれて」とは、「思いがけない出来事や事態にはっとして、驚いて」という意味の表現である。

エ　21行目「キオクの変形」とは、「運転士」のキオクが変わっている可能性についての表現である。

オ　23行目「同業の末端にいる者」とは、筆者自身のことについてのやや謙遜をこめた表現である。

答　エ